

## 寺尾 格 教授

寺尾 格 てらお いたる 1951年岡山県総社市で出生

### 学歴

- 1975年 東京都立大学経済学部卒業
- 1980年 東京都立大学人文学部独文学科卒業
- 1982年 東京都立大学大学院人文科学研究科（修士）
- 1984年 同 修士号取得：『こわれがめ』の喜劇性
- 1987年 同 大学院（博士）単位取得退学

### 職歴

- 1987年 法政大学 兼任講師
- 1988年 専修大学経済学部 専任講師
- 1992年 同 助教授
- 2001年 早稲田大学 兼任講師
- 2002年 専修大学経済学部 教授
- 2005年 東京芸術大学大学院音楽文化学 兼任講師
- 2011年 日本女子大学社会学部 兼任講師
- 2020年 専修大学国際コミュニケーション学部 教授

### 在外研究

- 1983年11月～1984年2月 ゲーテ・インスティトゥートの奨学金により、ドイツ・シュヴェーヴィッシュ・ハルに短期留学（Mittelstufe 修了資格取得）
- 1997年4月～1998年3月 長期在外研究員により、オーストリア・ウィーン大学
- 2008年1月～3月 短期在外研究員により、オーストリア・ウィーン大学

所属学会 日本独文学会、日本オーストリア文学会

学内役職 1990年9月より教員組合書記長（1991年8月まで）  
 2002年4月より教養教務委員会委員長（2006年3月まで）  
 2008年4月より外国語教育研究室室長（2020年3月まで）  
 2013年9月より教員組合委員長（2014年8月まで）  
 2019年4月より現代文化研究会会長（2020年3月まで）

学外役職 2015年第31号より『オーストリア文学』編集長（2017年第33号まで）

担当科目 ドイツ語初級・中級・上級、世界の言語と文学（ドイツ）、教養特殊講義（演劇論）、国際事情（ドイツ）、世界の文学、世界の文化（ヨーロッパ）、教養ゼミナール等

## 業績一覧

### I 単行本

- 2019年10月25日（単著）『ドイツ演劇クロニクル』彩流社。
- 2013年3月20日（共著）「ドイツ現代演劇のプロブレマティックのために」『<過去の未来>と<未来の過去>』同学舎、411-421頁。
- 2012年10月10日（単著）『ウィーン演劇あるいはブルク劇場』論創社
- 2012年2月1日（共著）『ヴィッテンベルクでドイツ語・文法』同学社
- 2005年10月1日（共著）「Die postdramatische Theatersprache von Elfriede Jelinek」『Poetik und Rezeption』Studienreihe der Japanischen Gesellschaft für Germanistik 034. (Hrsg.v.Walter Rupprechter) 日本独文学会研究叢書 034号所収、S.33-38.
- 2001年4月30日（共著）「ウィーン/ベルリン二都物語—1990年代のドイツ演劇」『<戦後文学>を越えて-1989年以降のドイツ文学』日本独文学会、

67-81 頁

1997年12月 (共著)「ボート・シュトラウス『イタカ』におけるホメロス改作」  
『ドイツ演劇・文学の万華鏡』同学社、411-421 頁。

1994年3月 (共著)「Die Liebe ohne Dialektik - Eine Bemerkung über "Paare,  
Passanten" von Botho Strauss」『Sprachproblematik und ästhetische  
Produktivität in der literarischen Moderne』iudicium Verlag, S.89-96.

## II 翻訳

### (a) 出版

2009年10月10日 (共訳) エリカ・フィッシャー＝リヒテ『パフォーマンス  
の美学』論創社

2006年10月15日 ヴェルナー・シュヴァープ『魅惑的なアルトゥール・シュ  
ニッツラー氏の劇作による魅惑的な輪舞』ドイツ現代戯曲選 24、論創社

2006年8月10日 ボート・シュトラウス『公園』ドイツ現代戯曲選 19、論  
創社

2005年12月20日 ペーター・トゥリーニ『ねずみ狩り』ドイツ現代戯曲選  
3、論創社

2003年8月1日 ヴェルナー・シュヴァープ『かぐわしきかな天国』+ 解  
説「排泄と猥褻と暴力 ヴェルナー・シュヴァープの三位一体」『デリ』  
第1号、沖積社

2000年12月15日 ペーター・トゥリーニ『アルペングリュエーエン 残照の  
アルプス』、『PT パブリックシアター』第11号、世田ヶ谷パブリック  
シアター

1989年 フランツ・シュルツ「文学史上の用語<ロマン主義>ならびに<  
ロマン的>の概念形成」『ドイツロマン主義研究』、エンヨー

1983年 (共訳) ヴォルフガング・リマー『R・W・ファスビンダー』新紀元  
社

## (b) 上演

- 2016年5月28日・29日 フィリップ・レーレ 『モノ』 本邦初の本格上演  
村上慎太郎演出(夕暮れ社 弱男ユニット) 大阪 AI・HALL
- 2015年6月13日14日 フィリップ・レーレ 『モノ』 リーディング上演  
村上慎太郎演出(夕暮れ社 弱男ユニット) 大阪 AI・HALL
- 2015年5月17日 フィリップ・レーレ 『モノ』 抜粋のリーディング上演  
+ 解説、東京ドイツ文化センター
- 2012年5月17日・18日 フィリップ・レーレ『ゴスポディンと呼ばれて』(『走れゴスポディン』改題) リーディング上演+アフタートーク、ドイツ文化センター大阪+清流劇場共同企画、スタジオ STR (天満)
- 2012年2月25日 ニス=モメ・シュトックマン「もう船は来ない」 リーディング上演+アフタートーク、(VISIONEN ドイツ同時代演劇リーディング・シリーズ特別編) 東京ドイツ文化センター
- 2010年8月21日 フィリップ・レーレ『走れゴスポディン』 リーディング上演、(文学座) 東京ドイツ文化センター
- 2009年1月28日ー2月1日 ペーター・トゥリーニ『ねずみ狩り』再々演、アゴラ劇場
- 2008年5月31日 トーマス・ベルンハルト『エリザベス二世』(ウィーン・ブルク劇場俳優 ゲルト・フォス 一人芝居バージョン) 静岡芸術劇場
- 2005年9月～10月 ペーター・トゥリーニ『ねずみ狩り』再演、山口・みどり会館、京都・アトリエ劇研、広島・カフェ・テアトロ・アビエルト、長野・ネオンホール、東京・神楽坂 teatro iwato
- 2005年3月～4月 ペーター・トゥリーニ『ねずみ狩り』(うずめ劇場) 演出:ペーター・ゲスナー) +アフター・トーク、福岡・ぼんプラザホール、北九州スマックスホール、東京・両国・シアター・カイ、愛知芸術文化センター
- 2000年12月1日・2日 ペーター・トゥリーニ『アルペングリュエエン 残照のアルプス』リーディング上演、世田ヶ谷パブリックシアター

### Ⅲ 論文

#### (a) 紀要等

- 2020年3月31日 「直島の現代美術とパフォーマンス空間」 現文研第96号、専修大学現代文化研究会、25-39頁。
- 2018年3月31日 「<越境>するドイツ現代演劇 - ゲーテ『ファウスト』のニコラス・シュテーマン演出（2011年）について」 専修大学人文科学年報、第48号、1-25頁。
- 2017年3月31日 「罵倒のかなた - トーマス・ベルンハルトの『伐採』とクリスチアン・ルパの演出」 専修大学人文科学年報第47号、21-43頁。
- 2016年3月31日 「フィリップ・レーレの反資本主義的カリカチュア ―グローバル化に対峙するドイツ演劇テキスト」 人文科学年報第46号、専修大学人文科学研究所、75-102頁。
- 2014年12月12日 「2つのアーベントヴィントーウィーンの現代演劇とネストロイあるいはイエリネクの『大統領アーベントヴィント』」 うずめ劇場「喜劇だらけ オーストリア・コメディ、ネストロイの世界」 両国・シアターカイ、12-16頁。
- 2014年3月25日 「アウシュヴィッツ、ヒロシマ、そしてフクシマ以降 ―ドイツ語圏現代演劇との接点」 『岩波・文学』 3・4月号、第15巻・第2号、69-83頁。
- 2011年3月 「イエリネク『動物たち』のブルク劇場上演・ホイサーマン演出について」 『オーストリア文学』 第27号所収、日本オーストリア文学会、1-10頁。
- 2009年12月15日 「骨と排泄物―ヴェルナー・シュヴァープの「肉」的言語について」 専修大学人文科学研究所月報第242号、19-43頁。
- 2009年3月24日 「演劇するウィーンあるいはブルク劇場―秋の巻ふたたび：クルト・シュヴィッターズ『原音ソナタ』上演について」 専修大学人文科学年報第39号、73-101頁。
- 2006年11月30日 「三者三様『三人姉妹』イン・ベルリン ―ペーター・シュ

タイン、クリストフ・マルターラー、ミヒャエル・タールハイマーの演出について」専修大学人文科学研究月報第 226 号、23-42 頁。

2004 年 9 月 20 日 「ファスビンダーのメロドラマと市民悲劇 — 『ペトラ・フォン・カントの苦い涙』と『ブレーメンの自由』について」専修大学人文科学研究月報第 212 号、シンポジウム鼎談（小野沢稔彦＋渋谷哲也＋寺尾格）付き『ファスビンダーとニュー・ジャーマンシネマ』、37-50 頁。

2002 年 3 月 15 日 「演劇する都市ウィーンあるいはブルク劇場 秋の巻 — イェリネク『棒、杖、そしてナチ野郎』」専修人文論集第 70 号、133-153 頁。

2000 年 3 月 「Über den Chor der Japaner in "New York. New York." von Marlene Streeruwitz」『オーストリア文学』第 16 号、日本オーストリア文学会、28-35 頁。

2000 年 3 月 「演劇する都市ウィーンあるいはブルク劇場 夏の巻 — イプセン『人形の家』・チェーホフ『結婚申し込み & 熊』・野外ステージ」専修人文論集第 66 号、165-194 頁。

1999 年 10 月 「演劇する都市ウィーンあるいはブルク劇場 春の巻 — トーマス・ベルンハルト『リッター デーネ フォス』・ペーター・ハントケ『満ち足りた不幸』」専修大学人文科学月報第 190 号、1-22 頁。

1999 年 3 月 「コロスとモノログ — エルフリーデ・イェリネク『スポーツだんぺん劇』のブルク劇場初演をめぐって」専修人文論集第 64 号、33-64 頁。

1995 年 1 月 「ファロス無きファルス — ボート・シュトラウス『カルデヴァイ・ファルス』論」専修大学人文科学研究月報第 162 号、1-25 頁。

1993 年 3 月 「愛という欲望の喪失 — ボート・シュトラウスの『公園』」『ドイツ文学』第 90 号、日本独文学会、88-97 頁。

1991 年 9 月 「クラウド・パイマンとブルク劇場」専修大学人文科学研究月報第 142 号、1-20 頁。

1990 年 8 月 「繰り返すカフカ — 『変身』の詩学のために」専修人文論集

第 46 号、1-24 頁。

1987 年 3 月 「Ja-a-mmer-tal の響き —ボート・シュトラウスのドラマ解釈のために」 東京都立大学人文学部『人文学報』第 190 号。

1986 年 3 月 「クライスト『こわれがめ』の喜劇性 - ドラマ構造と言語機能について」 東京都立大学人文学部『人文学報』第 175 号。

1984 年 3 月 「『再会の三部作』論 —ボート・シュトラウス論のためのドラマトゥルギー分析の試み」 東京都立大学大学院『独文論集』第 2 号。

(b) [国際演劇年鑑] 関連

2019 年 「ドイツ演劇 2018 年」 『ブリタニカ国際年鑑 2019 年版』

2018 年 3 月 31 日 「ドイツ演劇 2017 年 カストルフ伝説の終わるベルリン・シャウビューネ劇場」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2017: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)

2017 年 3 月 31 日 「ドイツ演劇 2016 年 難民問題に対峙するドイツ演劇再び」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2016: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)

2016 年 3 月 31 日 「ドイツ演劇 2015 年 難民問題に対峙するドイツ演劇」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2015: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)

2015 年 3 月 31 日 「ドイツ演劇 2014 年 スキャンダルの都市三つ: ウィーン、ライプツィヒ、ベルリン」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2014: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)

2014 年 3 月 27 日 「ドイツ演劇 2013 年 フェリツィア・ツェラー『見知らぬ友人 X たち』のワーカホリック批判と悲哀」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2014: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)

2013 年 3 月 27 日 「ドイツ演劇 2012 年 『いつまでも嵐』あるいはハントケ、ローアー、イエリネク」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2013: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)

2012 年 3 月 27 日 「ドイツ演劇 2011 年 フクシマ原発とイエリネク『光のない』」 『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』 2012: 国際演劇協会 (ITI/

## UNESCO)

- 2011年3月27日 「ドイツ演劇2010年 マルターラーとシュリンゲンジー  
フとフェスティバル/トーキョー」『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』  
2009: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2010年3月27日 「ドイツ演劇2009年 「危機に対向する芸術」宣言」  
『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』2009: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2009年3月27日 「ドイツ演劇2008年 「テアター・ホイテ」誌の劇評家ア  
ンケート」『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』2009: 国際演劇協会 (ITI/  
UNESCO)
- 2008年3月27日 「ドイツ演劇2007年 ファウスト賞」『国際演劇年鑑 諸  
外国の演劇事情』2008: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2007年3月27日 「ドイツ演劇2006年 自主検閲批判と「文化の多様性保  
護条約」採択」『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』2007: 国際演劇協会  
(ITI/UNESCO)
- 2006年3月27日 「ドイツ演劇2005年 日本におけるドイツ年」『国際演劇  
年鑑 諸外国の演劇事情』2006: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2005年3月27日 「ドイツ演劇2004年 イェリネクのノーベル賞受賞およ  
び日本におけるドイツ年のために」『国際演劇年鑑 諸外国の演劇事情』  
2005: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2004年3月31日 「ドイツ演劇2003年 イラク戦争への異議申し立て」国  
際演劇年鑑2004 諸外国の演劇事情: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2003年3月31日 「ドイツ演劇2002年 予算削減と民営化・合併の嵐」国  
際演劇年鑑2003 諸外国の演劇事情: 国際演劇協会 (ITI/UNESCO)
- 2002年3月31日 「ドイツ演劇2001年 シュレーフとブラッシュの死に続  
く日常のサバイバル」国際演劇年鑑 2002 諸外国の演劇事情: 国際演劇  
協会 (ITI/UNESCO)
- 2002年10月17日 「2002年夏、東京のドイツ演劇: ファスビンダー、ペーター・  
シュタインそしてクラウス・パイマン」ウェブ・マガジン『アルゴ・ノー



- ト@21、9月・10月合併号』
- 2002年4月1日 「ドイツ観劇ノート 2002年春」 ウェブ・マガジン『アルゴ・ノート@21、4月号』
- 1993年10月 「シャウビューネ劇場とブルク劇場あるいはベルリンとウィーン」『テアトロ 特集・統一とドイツ演劇の今』 第108号

### (c) 演劇雑誌等への寄稿

- 2018年11月22日 「ウィーン・ブルク劇場 昔と今と」東京二期会オペラ公演「後宮からの逃走」日生劇場プログラム
- 2016年9月4日 「パラドックスに耐える胆力」平田英一朗『在と不在のパラドックス』（三元社）書評、図書新聞第3269号
- 2013年5月10日 「ウィーン・ブルク劇場」新国立劇場通信・世界の劇場22、「アジア温泉」上演プログラム
- 2011年5月10日 『演劇インタラクティヴ 日本×ドイツ』書評、Flaschenpost Nr.32. ゲルマニスティエンの会
- 2010年10月10日 「丸山匠先生とドイツ演劇」『ひろの』第50号、財団法人ドイツ語学文学振興会
- 2007年11月20日 「エルフリーデ・イエリネク『雲。家。』（PortB公演）」『デリ』第8号
- 2006年8月1日 『『エミーリア・ガロッチェ』タールハイマー演出、ドイツ座公演』『デリ』第6号
- 2006年7月8日 鼎談「多言語、多文化性を併せ持つホルヴァートの劇作」地人会第102回公演 ホルヴァート作『フィガロの離婚』上演パンフレット
- 2005年11月15日 「<暴発>する女・子供のシャウビューネ公演 イブセン『ノラ』、マイエンブルク『火の顔』」『デリ』第5号
- 2005年10月10日 「ドイツ演劇プロジェクト2005」『ひろの』第45号、財団法人ドイツ語学文学振興会

- 2005年5月5日 「エルフリーデ・イエリネク 挑発の織姫」『デリ』第4号
- 2004年11月15日 「エルフリーデ・イエリネクの一撃」 ニュース専修第410号
- 2004年11月1日 「憎しみ愛の閉塞世界『パラサイトたち』マリウス・フォン・マイエンブルク（文学座若手研究上演）」『デリ』第3号
- 2004年10月15日 「挑発に満ちた難解さ ノーベル文学賞イエリネク」共同通信
- 2004年10月12日 ラディカルな挑発の「織物」：エルフリーデ・イエリネクの魅力 毎日新聞 夕刊
- 2004年5月1日 「それで?おまえ自身は一体どうなんだよ? ドイツ演劇における裁判劇について」『悲劇喜劇』5月号
- 2003年12月15日 鼎談「ベルリン演劇の<今>」『デリ』第2号
- 2003年10月25日 「乾いた「声」のブレヒト演出 ブレヒト的ブレヒト演劇祭 PortB（ポルト・ビー）公演批評」シアターカイ批評通信第19号
- 2000年12月2日 「オーストリアにカンガルーはいないーオーストリア現代演劇の状況と背景」シンポジウム「オーストリアの現代演劇」パンフレット、シアタートラム（世田ヶ谷パブリックシアター）

#### (d) ドイツ語教育関連

- 2017年5月15日 「ドイツ連邦共和国基本法第1条第1項」コラム・外国語のススメ 56、ニュース専修第569号
- 2017年1月15日 「一つの外国語とスポーツと楽器と」コラム・外国語のススメ 53、ニュース専修第556号
- 2015年5月15日 「オルゲルの響き」コラム・外国語のススメ 38、ニュース専修第536号
- 2015年2月15日 「語学はスポーツ!」コラム・外国語のススメ 36、ニュース専修第533号
- 2014年4月15日 「e-learning での外国語学習を CALL 教室で!」コラム・

- 外国語のススメ 28、ニュース専修第 523 号
- 2014 年 1 月 15 日 「外国語のつづりと音」コラム・外国語のススメ 26、ニュース専修第 520 号
- 2013 年 2 月 25 日 「ヴィッテンベルクでドイツ語・文法」『ラテルネ』 第 109 号、同学社、16-18 頁
- 2012 年 1 月 15 日 「外国語はスキル科目か?」コラム・外国語のススメ 4、ニュース専修第 496 号
- 2009 年 3 月 31 日 「平成 20 年度 LL 機器使用アンケートについて」『専修大学 LL 研究室ワークショップ発表論集』 第 10 号
- 2009 年 6 月 15 日 「ベートーベン第九交響曲『合唱』のドイツ語」『専修大学 LL だより』 専修大学 LL 研究室
- 2008 年 3 月 15 日 「ドイツ・ヴィッテンベルクにおける短期語学研修紹介 DVD 作成について」『専修大学外国語教育論集』 第 36 号
- 2004 年 4 月 2 日 「外国語・異質さと新しい自分と」『専修大学 LL だより』 第 23 号 専修大学 LL 研究室
- 2004 年 3 月 15 日 「ドイツ語入門講義の Web 化」『専修大学 LL 研究室ワークショップ発表論集』 第 5 号
- 2003 年 4 月 1 日 「土台を固めろエーンヤコ・ラ」『専修大学 LL だより』 第 19 号
- 2003 年 3 月 15 日 「発声とウォームアップ 外国語の導入教育のために」『2002 年 LL 教室ワークショップ発表論集』 第 4 号 専修大学 LL 研究室
- 2002 年 10 月 31 日 「精神論だけでなく —大学の教育・授業を考えるワークショップに参加して」 専修大学全学 FD 委員会広報誌 No.5
- 2002 年 4 月 1 日 「ドイツ語のすすめ —ヨーロッパ言語地図」『専修大学 LL だより』 第 15 号、専修大学 LL 研究室
- 2002 年 3 月 15 日 「ドイツ語授業運営とホームページ利用」『2001 年 LL 研究室ワークショップ発表論集』（統一テーマ：外国語教育とメディアのイ

ンターフェース)、専修大学 LL 研究室

2000年12月12日 「インターネットに思う」『専修大学 LL だより』第10号、  
専修大学 LL 研究室

1999年11月10日 「ドイツもいろいろ」『専修大学 LL だより』第5号、専  
修大学 LL 研究室

1999年3月31日 「外国語教育カリキュラム改革のために」『専修大学外国  
語教育論集』第27号

1997年3月31日 「ドイツ語夏期集中授業報告」『専修大学外国語教育論集』  
第25号

1995年10月 「So phantastisch...」『Brunnen』第375号、郁文堂

1993年3月31日 「いわゆる第二外国語の必修に関して」『専修大学外国語  
教育論集』第22号

#### (e) 専修大学教員組合関連

2014年7月20日 「四半世紀のソネット」 専修大学教員組合新聞第57号

2003年7月26日 「教室が足りないのブルース」 専修大学教員組合新聞第  
46号

2002年7月30日 「恐竜の涙は空を見上げていたか？ 教員組合懇談会に寄  
せて」 専修大学教員組合第51期活動報告

1993年7月27日 「闇夜のカラス 教養改革に寄せて」 教員組合新聞第36  
号

1992年1月30日 「鬼のいる間に・・・」 教員組合新聞第34号

1989年3月10日 「春は曙」 教員組合新聞第28号

#### (f) その他

2010年4月1日 「読書のススメ：『音楽の聴き方』 岡田暁生著、中公新書」  
専修大学図書館パンフレット。

2001年6月26日 「哲学の道 古書の道」 専修大学『育友』第94号、専修

大学育友会。

- 1992年12月 「寛大なる神々」のソナタ 1992年度・人文研夏期合宿に参加して」専修大学人文科学研究所月報第150号
- 1991年11月20日 「アブナイ魅力 寺山修司讃江 一高取英著『寺山修司論 創造の魔神』」 ニュース専修第270号

#### IV 研究発表・シンポジウム・対談・鼎談・アフタートーク等

- 2016年10月19日 講演「トーマス・ベルンハルトとウィーン演劇」 フェスティヴァル・トーキョー F/T トーク 東京芸術劇場アトリエイースト
- 2016年10月3日 朗読と対談 ニス・モメ・シュトックマン『Der Fuchs(きつね)』 東京ドイツ文化センター
- 2015年10月31日 研究発表「Tirade und Mantra.—Über die Theaterarbeit von Christoph Ransmayr」 オーストリア現代文学ゼミナール
- 2015年6月1日 講演「『モノ』を読む」 大阪ドイツ文化センター AI・HALLにて
- 2011年11月5日 研究発表「Sterben als Schweinescheisse oder Peter Turrini und Werner Schwab」 イルゼ・アイヒンガー・シンポジウム、日本大学
- 2009年5月31日 学会報告「Werner SchwabのFleisch-Spracheについて」 日本オーストリア文学会、明治大学
- 2009年3月31日 実践報告「平成20年度LL機器使用アンケートについて」 『専修大学LL研究室ワークショップ発表論集』第10号
- 2007年3月1日 アフター・トーク :PortB公演 イェリネク『雲。家』(演出高山明) にしすがも創造舎
- 2007年1月12日 ヴィッテンベルク2006年8月短期語学研修のDVD作成(約20分)
- 2005年11月12日 学会発表 :Katrín Roeggla's Theatersprache in Bezug auf das Postdramatische. 第14回オーストリア現代文学ゼミナール

- 2005年10月10日 学会発表:現代演劇におけるオーストリア的視点 日本独文学会シンポジウム:演劇のパラダイム転換と新しいタイプの戯曲テキスト 同志社大学
- 2005年5月3日 学会発表:Zur postdramatischen Theatersprache von Elfriede Jelinek 日本独文学会シンポジウム:Elfriede Jelinek: Sprache und Rezeption 早稲田大学
- 2005年2月7日 シンポジウム「ブレヒト以後のドイツ演劇」シアター・カイ
- 2003年12月15日 鼎談「ベルリン演劇の今」谷川道子+寺尾格+新野守弘 『デリ』第2号
- 2003年10月4日 口頭発表:ドイツ語入門講義のWeb化 専修大学LL研究室ワークショップ
- 2002年12月14日 口頭発表:発声とウォームアップ 専修大学LL研究室ワークショップ
- 2001年12月15日 ワークショップ実践報告「ドイツ語授業運営とホームページ利用について」第4回専修大学LL研究室ワークショップ
- 2000年6月 研究発表:ウィーン/ベルリン二都物語・90年代の演劇状況 日本独文学会シンポジウム:<戦後文学>を越えて 1989年以降のドイツ文学 東京都立大学
- 1999年11月19日 研究発表:Ueber den Chor der Japaner in "New York. New York." von Marlene Streeruwitz オーストリア現代文学ゼミナール
- 1987年2月 研究発表:「ボート・シュトラウスの散文作品に関して」現代ドイツ文学研究会
- 1984年8月 研究発表:「ボート・シュトラウス『グロース・ウント・クライン』について」現代ドイツ文学研究会
- 1983年3月 研究発表:「ボート・シュトラウス『再会の三部作』に関して」現代ドイツ文学研究会